

瀋陽駐在員事務所

札幌⇄瀋陽の直行便再開！！

遼寧省大手旅行会社が、7月21日から8月21日までの期間限定で北海道旅行を売出しました。定期チャーターで中国南方航空が札幌⇄瀋陽の直行便を飛ばします。直行便の開通は1998年。当時は北京や大連への直行便はなく、大陸への渡航手段として大いに注目されたと関係者からは聞きます。あれから14年・・・新千歳空港は、北京週4便、上海週5便、大連週2便が就航しており（6/15現在）、これから夏にかけて定期線増便、チャーター便が予定され、ずいぶんと往来しやすくなりました。

一方の瀋陽。瀋陽空港は、2013年の完成をめざし第3ターミナルを急ピッチで建設中。完成により輸送人数は、現在の1000万人から、2500万人へと大幅に向上します。本年3月末には、ドイツルフトハンザ航空がフランクフルトとの直行便を就航し、また、今月末には成都発瀋陽経由の北米線が開通するなど、今や、主要国を含む7か国、11都市へと航路は広がり、不定期チャーター便を含めると世界約30都市への直行便がある東北最大の空港へと変貌を遂げました。日本へは、成田、大阪、名古屋、福岡の4都市を結んでいます。

歴史的に日本とのつながりが深い瀋陽ですが、近年は積極的に国際線を拡充しています。当地瀋陽が、東アジアの中心となる日もそう遠くない事なのかもしれません。

渋川 隆彦



瀋陽空港内



搭乗口横の北海道旅行のPOP

ユジノサハリンスク駐在員事務所

注目を浴びる！当行ロシアビジネス

当行は5月22日、ロシア国内最大手のズベルバンクと提携いたしました。調印式には堰八頭取が出席。当行のロシア極東地域におけるこれまでの活動実績と今後の抱負を述べました。同行との提携をきっかけに、当行の当地域での活動も強化され、道内企業にとっても進出の可能性が大いに高まるものと確信しています（写真上段）。

更に、上記提携から遅れること2週間後には、ロシアの首都モスクワに笹原副頭取が訪問。ロシア中央銀行他、主要先と面談し、ロシア極東地区でビジネスを展開する上で重要な中央（モスクワ）との人脈構築を図ることが出来ました。次に、カザン市（モスクワの南東800km）で開催された「日露投資フォーラム」に副頭取がプレゼンターとして出席。日本側からは枝野経済産業大臣はじめ、ロシアでビジネスを展開している日本企業の主要どころが勢ぞろいしました（日本側：約200名、ロシア側：250名）。副頭取から「日露間の地域レベルでの経済交流」をテーマに当行のロシア極東地域での営業活動を発表（写真下段）。参加企業からも当行の取組事例が話題となり、当行が極東で最も活発に活動している日本企業として注目を集め、『道銀＝極東ロシア』を日露双方にアピール出来ました。



調印式



営業活動を発表

三上 訓人